

第 5 回意見交換会の開催報告

1.日時：令和 3 年 12 月 13 日 17 時 55 分～19 時 15 分

2.場所：名古屋市役所 西庁舎 12C 会議室

3.団体名：相生山緑地内道路早期完成協議会

4.市出席者：緑政土木局企画経理課 可児主査（企画）

道路維持課 姫野主査（安全対策）

道路建設課 山中課長

蒲野主査（事業調整）

緑地事業課 小林緑地計画係長

5.参加者：6 名

6.当日の次第

（1）開始のあいさつ

（2）現状報告

（3）弥富相生山線について

（4）入り込み交通対策について

（5）相生山緑地 緑地計画検討会の報告

（6）終了のあいさつ

7.主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）

（弥富相生山線について）

○学術検証懇談会に中部大学の学識者が多いのはなぜか。

●平成 22 年の学術検証委員会時に市長が選んだ学識者で、当時は名古屋大学の学識者が多かった。当時と同じ学識者達だが、10 年経ち、中部大学在籍の学識者が多くなった。

○折衷案について、学識者から具体的な提案はなかったのか。

●学術検証懇談会で明確な具体案について、学識者から発言はなかった。様々な価値観あるので、それぞれが歩み寄れるような案を検討していきたいと考えている。

○上手くいかないと思う。理念のない折衷案ほど難しいものはない。市が目的・理念をある程度持つ必要がある。

●少しでもそれぞれが歩み寄れるような案を検討したい。

○人口が減っていくと予測されているが、新築マンションや老人施設が建築中で増えていくと思うが、調査の結果でどうなるのか。

相生山の所だけ道路がなく、弥富相生山線を通せば道路の配置間隔が良くなると
思うし、8割方完成しているのに、中止するのは無駄になると思う。

●今回の調査で数値などにより事実を明確に示すことができた。これらの結果を基
に、きちんと整理した実現できるような案を作成していきたいと考えている。

○道路ができた場合、実際には移動時間の短縮効果はもっとあると思う。

●その時々状況によって異なるが、机上の計算では資料に示す通りとなる。今後の
検討材料にはなると考えている。

○野並は東海豪雨で被害にあった。残り2割なのになぜ通せないのか。市長に訴え
てほしい。道路を通してもらえる見込みはあるのか。

○避難時間の短縮についてすごく大きな効果だと思う。災害が起きたら、「市が工事
をやらなかったから命を落とした」ことになり、市の責任になる。1日でも早く道
路を通して欲しい。

●10年間、中断からなかなか進まなかった現状がある。様々な価値観がある中、で
きるかぎり歩み寄れるような案を検討したい。

○（道路早期完成を求める）署名も出したがどうなっているのか。受け取っただけで
何も返事がない。署名した人からどうなっているのかと聞かれている。

●平成26年に市長から道路事業を廃止する方針が示され、昨年度に学術検証懇談会
を開催し、学識者から折衷案という意見があった。市長からも折衷案を検討するよ
う指示があった。今後は、それぞれが歩み寄れるような案を検討していきたい。

○島田交差点の工事について、1車線あたりの幅員が狭く、バスとぶつかりそうにな
り、危ない。

●限りある現状の道路幅員の中で、渋滞対策を行う必要があった。工事完了後は、令
和4年度に対策の効果検証を行う予定。一度現地を確認させていただく。

○地元の意見を聞いて欲しい。ヒメボタルや植物は大丈夫なのではないのか。

●地元の皆さんの意見は非常に重要であると考えている。

○検討ばかりでは駄目だ。

（入り込み交通対策について）

○ゆっくり走る車両は増えたとのことだったが、直線部はすごいスピードを出して
いる車両がいる。子供の交通事故も起きている。

○入り込み車両によって道路の補修の頻度が上がる。

○弥富相生山線がないから入り込み交通が発生する。規制のかかる朝7時より前に

入り込んでいる。

（相生山緑地 緑地計画検討会の報告）

- 竹藪の根を切らないと、4，5年後更に増えて手遅れになる気がする。
- 緑地内の買収済みの用地にクラウドファンディングを募って、ボランティアと一緒に花が咲く樹種の記念植樹、その木に寄付者のコメントが入った石のプレートを設置したらどうか。また、緑地の南側から北側へ繋ぐ橋を整備して、橋の上から花を散策しながら見えるような緑地はどうか。
- 今後の検討にあたり、参考にさせていただく。
- オアシスの森くらぶは、道路建設に反対している団体ではないのか。しっかりした知識を持って竹林や柵などの管理を行うべき。
- オアシスの森くらぶは、市が認定した森づくり活動を行っている団体であり、道路建設の賛否について主張している市民団体ではない。市とオアシスの森くらぶとの間で1年更新の協定を取り交わし、活動計画書を市へ提出して緑地の保全活動をしていただいている。竹林や老朽化した柵などの管理については、これからも手を入れていく必要があると考えている。